

現場へイマ、
イマを伝える



ハリナレ!
(ハリマビシステムナレッジレポート)

階段

にまつわる

ヒヤリ・ハット



今回のトピックス

ビルメンテナンス業では「転倒」に次いで「墜落・転落」が多く発生しています！

「墜落・転落」は通常の転倒より衝撃の強度が増し、災害の重篤度が高まります。その多くは「脚立」や「階段」で起こっています。脚立」は日頃から細心の注意を払い使用していると思いますが、階段」は日常的に利用する身近な存在であり、その危険性をあまり意識していないかもしれません。

そこで今回は「階段」をクローズアップし、そのリスクと予防策について、事故の特徴や原因別に整理しました。不安全な行動をしない・させないよう、身近なリスクの回避に努めてください。

「階段事故」の基本的予防対策

基本

- ①手すりを持って昇降する
- ②「〇〇しながら」は禁止
- ③滑りにくい適切な履物で

設備・環境面

- ①階段にはモノを置かない
- ②暗いときは明かりを点けて
- ③屋外階段は雨天時を避ける

作業方法

- ①足は段違いで立ち止まって
- ②長時間・連続作業を避ける
- ③時間に余裕をもって慌てない

※出勤前や作業前のウォーミング・アップ（準備運動）も大切な予防対策です。

■「階段事故」の特徴

1

事故は下りるときに多く発生

足を滑らせ転落

雨天時・雨天後、擦り減った靴、金属の滑り止め、滑り止め劣化

足を踏み外し転落

〇〇しながら、後ろ向き、両手に荷物、薄暗い、モノがあり狭い

2

上りでも事故は起こる

段差につまずき転倒

長時間・連続（疲労）、両手に荷物、薄暗い、モノがあり狭い

3

手すりを持っていても事故は起こる

汗やウエスで手が滑る、転倒

4

物損事故も起こりやすい

屋外階段は汚水やウエスが階下に

5

「階段」×「脚立」は危険が倍増！

階段途中の照明器具の清掃や管球交換



■「階段事故」の主な原因

1

「両手に荷物」は典型的な事故事例

- ・足元が見えない
- ・手すりを持ってない
- ・受け身もとれない

3

屋外は天候の影響を受けやすい

- ・雨天時は濡れて滑りやすい
- ・濡れていて手すりを持ってない
- ・高層階は強風も影響

2

「ながら」で足元への注意が散漫に

- ・手すりを拭きながら
- ・同僚と話をしながら
- ・よそ見をしながら
- ・考え事をしながら
- ・スマホ操作しながら
- ・新人に指導しながら

4

事故の背後に「焦りの心理」

- ・時間に追われ慌てて
- ・モノを落として
- ・ゴミに気を取られ
- ・扉を開けたらすぐ階段

階段の危険性を
しっかりと心得て、
基本的な予防対策
を実践しましょう。



坂道だと
こんなに急な
傾斜に...!!



○階段の設置基準の違い○

共同住宅 / 約46度

オフィスビル / 約40度

商業施設 / 約35度

駅 / 約28度

※角度はそれぞれの基準の最低水準を基に算出

「3A運動」で転倒・転落災害を防止しよう！！

3A運動とは、労働者が特に心掛ける歩行行動を表した「あせらない」「あわてない」「あなどらない」のキーワードの頭文字を取り、安全な歩行行動の定着化を図ることにより、転倒・転落災害を防止するものです（栃木労働局 HP より）。

あせらない

早くしなければと感じても苛立たない。
あせっていても足元確認をおろそかにしない。

あわてない

突然の出来事にも落ち着いて行動する。
あわてて走らない。

あなどらない

ちょっとした段差や濡れた床をあなどらない。
転倒をあなどらず教育の対象とする。

あせりや気の緩みが転倒・転落災害を誘発します。一步一步を確認することが意識できれば、それが労災事故にあわないための第一歩になります。